

あおたけ

まきび病院家族会機関紙 事務局
〒710-1301 岡山県倉敷市真備町箭田 2387
TEL (086) 698-6511 第169号 2014.7
ホームページアドレス <http://www.ne.jp/asahi/m/0/aotake/>

〈5月定期総会の報告〉

29日、マインドホールで13名の出席があり、総会は議案書が参加者全員拍手承認で可決されました。会員から「けんかれんの負担金がなくなり会費の低額化を検討しては？」という意見が出たので今後定例会で継続審議していくことになりました。その後守屋昭先生の記念講演「病院と地域での実践から」が開かれました。

要旨：

県精神保健福祉センターに2001年～入職、長船や倉敷の病院が不要な長期入院拘束・密室化・資産化が人権侵害にあたり廃院となり、入院者の転院や退院、アフターケアの対応を求められた。四半世紀入院や生計苦の人が多かった。医師仲間に相談しても反応がなく弁護士たちの協力を仰いだ。身体合併症の方もおり総合病院へつなごうとしたが、排斥された。自分の力量不足で、早く対応していれば亡くなられずに済んだ方がおられた。

廃院時の入院者のうち、自宅退院を希望した人を家族の協力のもと自宅に退院援助したところ、在宅生活の継続で妄想が現実的な話に変化・増えた。人間の可能性に感動。指導を受けた病院管理者が無計画に短期間処方のみして、自宅へ送り届けて再燃悪化した人に服薬介入しようとしたところ、「介入に病院管理者の許可を取っているのか？」といわれ愕然。1ケース100回くらいの往診でようやく関係作りにいたる。

幻覚に基づき地域の地蔵像を無断で自宅に持ち帰った患者さんがいて訪問、

患者さんのいたわる気持ちに癒された。措置（重大な事件を起こした人の責任能力を鑑定すること）診察を受け服薬を拒否しなかった方を通して「医療との出会い方は重要」と学んだ。

患者さんが社会で人間として扱われていないことに対する憤りを実践の原動力にしてきた。困難事例を引き受けている病院も必要悪として儲けているのも事実。これは社会の問題。身体科に比べ精神科は患者さんを取り巻く周囲のために存在しているのが現実。まきび病院が潰れては困っている。患者さんを人間として対応している。まきびの良さ＝ゆっくりペースに付き合うことと思う。人生の代わりができないが応援はできるということを意識していきたい。

質疑や感想：

- ・医師も大変なんだと実感した。

Q. 「働くことについてどう思う？」

A. 「重度心身障害者の存在価値はあるのかと同じ問い。生きているだけで価値があると思う。」

Q. 「自立向上を求めると症状悪化になりやすいのでどうしたらよいか？」

A. 「関係者は本人が当たり前に行っていることを認知・評価できているか自問する必要」